

1. 広域地質調査

○本年4月15日から6月15日まで、隠岐周辺、上越沖、秋田・山形沖及び日高沖において、海洋調査船により、海底の地形や海底下浅層部の地質構造データを取得。

○解析の結果、表層型メタンハイドレートの存在の可能性がある構造(ガスチムニー構造)を新たに746箇所確認。昨年度に確認された225箇所と合わせ、2年間の合計で971箇所のガスチムニー構造を確認。

○これらのガスチムニー構造は直径100～500m程度で、一部には直径1,000mを超えるものも確認。

平成25年度調査面積	11,060km ² 、ガスチムニー構造の確認数	225
平成26年度調査面積	19,270km ² 、ガスチムニー構造の確認数	746
調査面積合計	30,330km ² 、ガスチムニー構造確認数合計	971

2. 地質サンプル取得調査

○さらに、本年6月21日から7月10日まで、上越沖及び秋田・山形沖において、JOGMECの「白嶺」により、3箇所で掘削を行い、表層型メタンハイドレートを含む地質サンプルを取得。

○今回取得した地質サンプルを観察した結果、共通の特徴として、ガスチムニー構造の上部(海底面から海底面下50メートル程度の深さまでの範囲)には厚さ数10cm～1m以上のメタンハイドレートが存在し、それよりも深いところでは、厚さ1cm未満や直径1cm未満のメタンハイドレートが存在していることが判明。

3. プレスリリースの日程

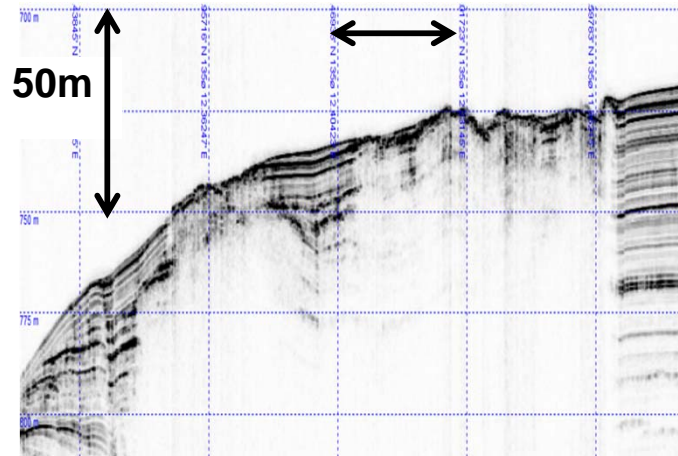
○上記、調査結果を本日発表済み。

今年度地質調査を実施した海域



音響探査記録による断面図

900m



a

b

ガスチムニー構造

ガスチムニー構造

上越沖のガスチムニー構造で取得された地質サンプルの様子

